

うんてい

「今から休けい時間ですが、今月の生活目標は『学校のままりや遊びのルールを守ろう』
ですね。よく考えて行動しましょう。」

先生のお話も終わり、休けい時間になりました。今、ゆうたろうのクラスでは、うんていの上を歩く遊びがはやっています。うんていは少し高いけれど、そこをこぼらずに歩くのはスリルもあって、ゆうたろうはこの遊びが大好きでした。休けい時間になると、さそい合つてうんていまで走っていきます。

ゆうたろうたちがうんていの上を歩いていると、ふみとゆりがやってきました。

「うんていでそんな遊びしたらいけないって先生に言われたでしょ。そんなことしたら、あぶないわよ。」

「だいじょうぶだよ。落ちないように気をつけているから。それに少しあぶない方が、スリルがあつていいんだよ。」

「ままりをやぶつたら、先生におこられるわよ。」

「いつも、おこられているからなれているぞ。」

「もう、しらない。」

二人が行つた後も、ゆうたろうたちは、ずっとうんていの上を歩いて遊んでいました。

次の休けい時間、少しおくれで、ゆうたろうたちがうんていに行くと、一年生が集まっています。その中で女の子が一人なっています。

「何しているの。」

ゆうたろうが聞くと

「よつちやんが、うんていから落ちたのよ。見て、うんていにくさくさん土がついているでしょ。よつちやん、あの土で手をすべらせて落ちてしまったの。」

見るよ、うんていの手すりにはくさくさん土がついています。

(ぼくたちのせいだ。ぼくたちがうんていの上を歩いたから、くつ^たの底の土がうんていについたんだ。)

ゆうたろうたちは思わす顔を見合わせました。